

訪問看護 スマイル通信

Vol. 88 R32

『節分』 『立春』 暗い冬を終え、少しでも明るい春が来るように。
鬼は外～ 福は内～



Kちゃんのおはなし パート3 ～その後～



R2年4月号と10月号で登場のKちゃん（小学3年生・女兒）。精神的な障害があり、嫌なことや何かのストレスをきっかけに癇癢（かんしゃく）を起こし、叫びながら暴れてしまいます。嫌いな教科やテストがあったりすると登校拒否も。学校やお友達、私達など他人の前では癇癢を起こさないのですが、お母様とのやり取りがしばしば癇癢の引き金に。そのため夜は癇癢を起こし入浴がほとんどできないことでR1年12月より訪問（入浴介助）が開始されました。入浴介助は無事に受け入れられ、私達との信頼関係も良好。

その後調子の悪い時期にはひどい癇癢が続きしばらく入院。退院後はお母様とのバランスを保つために短い入院を定期的に繰り返しています。色々ありながらも1年が経とうとする昨年11月下旬ごろ、Kちゃんが入浴介助を拒むようになりました。訪問自体は嬉しそうに笑顔で歓迎してくれるのですが、お友達と遊んでいる時間帯のため「お風呂は夜自分で入るからイヤだ！まだ遊びたい！」と強く拒否。私達もしばらく待っていたりするのですが、何とか入浴してもらおうと誘導を・・・

お母様は約束されている訪問時間を守れないKちゃんを厳しく注意。ある日お母様から叱られたKちゃんの気持ちが爆発し、訪問時に癇癢が起きてしまいました。癇癢が起きないように努めていながら、自分たちの訪問が引き金になっては本末転倒。Kちゃんの立場で考えてみれば、夕方お友達と遊んでいる最中に、訪問だからといってお風呂に入らされたらイヤに決まっている。お風呂は夜に入るのが普通。もう言葉で誘導できるほど子供ではない。入浴介助というケアにとらわれてKちゃんの気持ちを尊重できていなかった、と反省しました。お母様とも話し合い、これからは訪問時の入浴をきっぱりやめ、Kちゃん的生活リズムを優先することに。Kちゃんにも「これからは訪問の時に風呂はやめるね。もうKちゃん自分で入れるもんね。」と伝えると「うん！」と笑顔。「入浴介助が無くても訪問は来てほしいです。看護師さんが入ってくると気持ちがリセットされて癇癢が起きにくい気がします。」とお母様からご要望があり、主治医からの指示もあり訪問は継続。その後はお話ししたりKちゃんがやっていることを一緒にやったり、時間を共有するようにしています。

さりげなく入浴状況をうかがうと「（お風呂に）入ってるよ。」とKちゃん。お母様も「ちゃんと一人で入ります。」と。さらに登校もすんなりできているようで「学校楽しかった（^^）」と元気に話してくれます。

「最近すごく調子がいいです。この間なんてお風呂の掃除までしてくれて。」とお母様。

1年前を振り返るとその差に驚きます。これが子供の『成長』というものなのかな・・・？

これからもKちゃんを尊重しながら見守りたいと思っています。（^^）



365日平日料金にて訪問いたします！

「気管切開」 「人工呼吸器装着」 「吸引」 「入浴介助」
「健康管理」 「服薬管理」 「腹膜透析」 など

どのような内容でも大丈夫です！！
ぜひご連絡ください！



訪問看護ステーション スマイル

PC <http://houmonsmile758.web.fc2.com/>

TEL (052) 680-9761

FAX (052) 680-9762

